

聞く！  
語る！

特集  
対談

# 5年おきの全国的なイベントで 経済も「ホップ・ステップ・ジャンプ」

昨年、山口県建設業協会と山口県建築協会（砂川敏男会長）は山口国体開催に向けた「国体募金」の趣旨に賛同し、山口県建設業協同組合連合会（日野雅巳理事長）、建設業退職金共済事業山口県支部（秋山智洋会長）、山口県管工事工業協同組合（田中文雄理事長）に呼びかけて集めた1200万円の寄付を行いました。これに対して6月29日、山口国体の実行委員長である二井知事から、感謝状と、ちよるる、のめいぐるみをいただきました。また贈呈式の後、国体・障害者スポーツ大会局の太田光宣局長と当協会の秋山智洋会長が対談。国体開催に向けての思いなどをうかがいました。

■「おいでませ」を合言葉に、  
おもてなしの心で

秋山／山口国体では県民が盛り上がり、さらに国体を機会に経済の活性化につながればということで、このたび寄付をさせていただきました。

太田／ありがとうございます。県では「おいでませ！山口国体」、「おいでませ！山口大会」を支え、盛り上げる取り組みとして『ちよるる募金』をスタートさせました。こうして集まった募金はボランティア活動や花いっぱい運動、大会運営などに活用したいと考えています。山口県建設業協会さんからの寄付は大変ありがたい、大

切に使わせていただきます。

秋山／私たち協会員も各地区で美化活動などを行っています。国体は大きなイベントなので、県外からも大勢の来客があります。その人たちに、山口県に対して良い印象をもって帰ってほしいと願っています。

太田／そうですね。そのためには「おもてなしの心」が必要だと思います。「おいでませ」という言葉から受ける印象は、「気さく」「温かさ」「アットホーム」といったことだと思うので、県内各地の特徴を生かし、温かい心で県外からの皆様をもてなしたいと思っています。花いっぱい運動や美化活動もその一つの取り組みです。

秋山／施設関係の整備や改修も進んでいます。きれいな競技場で気

持ちよくプレーに専念していただきたいですね。

太田／山口国体で使用する競技場は県内69施設あり、開会式が行われる維新百年記念公園の改修はほぼ完了しました。その他の施設の整備・改修も順調に進んでいます。これも県内の建設業者の協力あってこそだと感謝しています。

秋山／関係業者は計画的に、順調に工事を進めることができています。開幕まで残りわずかですが、安全に工事を終え、万全の



太田 光宣  
MITSUNOBU OTA  
国体・障害者スポーツ大会局 局長

準備をして開幕を迎えられるよう、最後のひと踏ん張りという気持ちで頑張っています。

### ■感慨深い前回大会

#### 時の流れを実感

**太田**／前回の山口国体は昭和38年でした。急激な経済成長の最中で、日本全体が非常に前向きになっていた時期です。また、翌年には東京オリンピックが開催されることもあり、山口国体も全県を上げて盛り上がった印象があります。

**秋山**／とくに山口市は天皇陛下もご列席になった開会式が行われましたから、印象深く覚えている人が多いようです。高校生の組体操や踊りなども披露されました。参加した人たちにとっては感慨深い思い出でしょう。

**太田**／その当時の選手たちも、ずいぶん高齢になられていますね。今は孫の世代が選手として活躍する時代でしょうか。

**秋山**／もしかししたら、その世代も指導者になっているかもしれません。時の流れを感じますね。(笑)

### ■育成プランも結実 大会本番が楽しみです

**秋山**／ところで、今は全国規模のスポーツ大会がたくさんあり、それぞれが盛り上がっていますが、山口国体を盛り上げるために県としてはどんな取り組みをしているのでしょうか？

**太田**／国体はほとんどのスポーツ競技を網羅した全国規模の大会で



す。高校野球の「甲子園」やラグビーの「花園」といった、単一競技の大会とは盛り上がり方が違うと思います。確かに会場が分散されることから、興味や応援も分散しがちになるようですが、地元の手が活躍すればやはり盛り上がるでしょう。

**秋山**／そうですね。競技である以上、山口県の選手が活躍してくれば応援する甲斐もあるし、盛り上がり方も違ってくるでしょうね。

**太田**／そのために、県では平成15年から「トップアスリート育成プラン」などを通じて選手の強化を進めています。平成21年の新潟大会ではまだ途中段階でしたから、結果に結びつかず28位に終わりました。しかし目標を15位以内に置

いた今年の「ゆめ半島千葉国体」では、総合順位で13位になり、総合得点も新潟国体を大きく上回る結果を残すことができました。

**秋山**／前半、少し出遅れた感がありましたが、後半の巻き返しが見事でしたね。やはり山口県の選手たちが優勝を争うのを見るのは嬉しいものです。

■「ジャンプ」の今年も終着点ではなく出発点

**太田**／山口県では平成13年に「きらら博」、平成18年に「国民文化祭」、平成23年の今年も「山口国体」と、ちょうど5年おきに全国規模の大きなイベントが開催されます。県ではこれを「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階ととらえ、県の活性化に結びつけていきたいと考えています。

**秋山**／5年という期間は「熱が冷めないうちに次の波が来る」という流れで、ちょうどいいタイミングだと思います。「ジャンプ」の今年が着地点という位置づけですか？

**太田**／確かに「ジャンプ」は一つ



秋山 智洋

TOMOHIRO AKIYAMA  
(社)山口県建設業協会 会長

の区切りでしょうが、これが終着点ではありません。逆にこの3つのイベントを出発点として、あらゆる意味で全国から目標とされるような県にしていきたいと考えています。そのためにも「ジャンプ」である山口国体は、県民全体が盛り上げていくイベントとして、ぜひ成功させたいのです。

**秋山**／私たち建設業者も、できる限りの支援と協力をしたいと考えています。

**太田**／今後ともよろしくお願います。